



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

第40号

平成28年（2016年）3月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

トップランナーの志をもって

兵庫教育大学大学院同窓会長 川村 庸子

このたび、平成27年8月1日付で、大橋博前会長さんの後を引き継ぎ、同窓会長を仰せつかりました川村です。兵庫教育大学と同窓会のますますの充実・発展に向け、微力ではありますが力を尽くす所存でございますので、会員の皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



【変化する大学・変化する同窓会】

この10年、国立大学の法人化からはじまり、各県の大学に教職大学院が設置されるなどの大きな変化がありました。そうした中で、平成21年4月、大学創立30周年を機に大学と大学院同窓会の連携・発展を目指して大学に「都道府県連携推進本部」が設置され、「大学院同窓会事務局」を兼務する体制が整えられ、会員へのサービスも充実しました。しかし、そのころ既に現職教員の大学院派遣を休止する自治体が増え、同窓会としては支部活動の停滞が大きな課題となっていました。その対策として派遣を休止した自治体をも巻き込んだブロック体制による活動の活性化が打ち出され、以後、in九州大

会、in宮城大会など、ブロックや近隣県合同の全国大会や研修・研究活動が行われるようになりました。

【兵庫教育大学の第3期中期目標】

加治佐哲也学長さんは、平成28年度から始まる国立大学法人の第3期中期目標期間（平成28年度～33年度）に向けた兵庫教育大学の取組構想として、元来のビジョンである「教師教育のトップランナー」として教師教育の実践と研究における全国拠点並びに地域拠点となる」に加え、「教員養成の高度化に取組み、卓越教職大学院となる」を設定しました。国の厳しい経済状況にあっても、日本の教員養成の高度化に向け改革を進める兵庫教育大学に対し、同窓会として惜しみない応援と強力なバックアップをして参ります。

【今期同窓会の重点事業について】

これまでの検討委員会の結果を踏まえ、次の4つの重点施策を実行していきます。

①教師教育のトップランナー、また教員養成の高度化に取組む大学の同窓会として、国や自治体に「提言する全国大会」を開催します。

・大会宣言文作成と次大会からの実施
・若手を奨励・激励する表彰（教育実践論文の募集と審査、支部やブロックでの若手の掘り起しと応募の呼びかけ）
・研究交流の促進（会員の著作・研究

物交流コーナールの設置、若手参加者の感想をネットや広報で紹介）

・準備会への支援（予算増額、開催ノウハウの伝授、開催地での役員会）

②会員数1万名にন্নんとする全国規模の巨大人材バンクの有効活用を図ります。

・講演講師の選定、「教職の先達」や広報での紹介

・支部活動助成金・ブロック会議経費の活用促進

・院生協との連携強化（会議・総会への参加）

③大学と現職による共同研究を促進します。

・都道府県連携推進本部による大学職員との仲立ちと集約

・都道府県連携推進本部による支部・ブロックへの応募方法の周知

④支部・ブロック活動を可視化し、活性化を図ります。

・支部・ブロックの活動を本部へ報告し、Hyokyo-netに時系列に掲載

・支部代表と役員との情報交換の実施

・兵庫教育大学スクールパートナーシップ事業（出張講座）の活用と集約

これらの施策を通じ、教師教育のトップランナーとしての熱き志のネットワークを力強く連結して参ります。

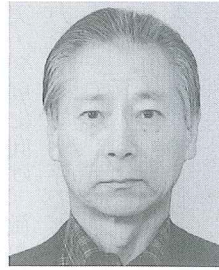
会員の皆様のご理解とご協力を何とぞよろしくお願い申し上げます。

ブロック活動の紹介(4) (通算)

―中部・東海ブロック―

中部・東海ブロック長

玉木 隆



中部・東海
ブロック大会
を、過去2回
岐阜県と静岡
県で開催しま
した。

次回(平成28年度)は、愛知県で開
催する方向で計画が進んでいます。
これまでの成果と課題をまとめてみ
ます。

〈成果〉

- ① 参加者全員が、A4一枚のレポー
トを持ち寄って交流することで、フェ
イスツーフュエイスによる有効な情報交
流の場になる。
- ② レポート内容は、現在の近況・心
境、兵教大の想い出、支部活動の現状
と展望、我が国教育の課題と提言、私
の生涯教育の現状と展望、兵教大同窓
会活動への展望…等硬軟多岐にわた
り、各自のモチベーションを高揚させ
る場になる。
- ③ ブロック内の親睦を深め、各自の
人的ネットワークを広げることができ
る。
- ④ 参加者を呼びかけることで、支部
活動・ブロック活動の活性化につなげ
る。

ることができ。

〈課題〉

- ① ブロック大会発足直後の現状で
は、参加者が限られていて、今後更な
る支部活動・ブロック活動の活性化に
つなげる方策を講じる必要がある。
- ② 各都道府県の実情に応じて、教育
委員会・校長会・教育研究所等との連
携を深め、広く情報を発信・収集する
必要がある。
- ③ 不易と流行の視点から、我が国の
教育の動向に関わることができるよう
性を模索したい。

各ブロックの実情により、支部活動・
ブロック活動活性化の方策は異なるも
のと思っています。

その実情に応じて、アプローチの方
法はそれぞれの特徴を生かした方向で
なされていると思っています。

現在、本部では同窓会活動の進展を
目指して、「基本問題検討委員会」が
開催されています。

理念と実践と成果が、課題解決的に
進むことが期待されています。

大橋博前会長の意を受けた川村庸子
新会長の体制のもと、ブロック活動活
性化の動きを止めることなく、一步一
歩前進させていける中部・東海プロ
クであり続けたいと思っています。

ブロック活動の紹介(5) (通算)

―西中国ブロック―

西中国ブロック長

渡邊 哲郎



平成26年8
月9・10日、
第34回兵庫教
育大学大学院
同窓会総会・
研究大会・山
口大会が、公立学校共済組合山口宿泊
所セントコア山口にて全国から100名を
超える参加者が参集し、盛大に開催す
ることができた。

台風11号の接近で開催が危ぶまれる
中、山口県支部会員15名の熱い思いが
天に届き、加治佐学長をはじめとする
大学関係者、同窓会本部役員の皆様方
をはじめ、全国各地からの参加を賜り、
総会・表彰・講演・実践発表・情報交
換会と一日目の予定を無事に終えるこ
とが出来た。二日目の秋巡検は、NH
K大河ドラマ「花燃ゆ」の放映を間近
に控えた時期でもあり、一日目に講
演をいただいた松陰神社宮司の上田俊
成様のご厚意により、松下村塾の畳に
座して宮司様のお話を拝聴し、塾生に
なった思いを体験させていただいた。

また、松下村塾をはじめ秋の明治維新
に関わる史跡が世界遺産に登録された
ことも本大会に彩りを添えている。
さて、前回山口支部が引き受けた第

23回山口大会の折には、県内はもとよ
り西中国ブロックをはじめとする近隣
の支部同窓会のご協力により、山口県
支部会員が60数名という時期に支部会
員数を超える参加を得て全国大会を実
現した。嬉野の地で共に学んだ学友同
士が声を掛け合った結果だと言う。今
回の山口大会のテーマ「兵庫教育大学
大学院で学んだ力を生かし広げよう」
のとおりに、教育実践研究を基盤とし
た人と人とのつながりが、大きな企画の
実現に力を発揮したものと考えている。

山口支部は、昭和62年に会則を定め
て以来、毎年8月最終土曜日に総会・
研究会・情報交換会(懇親会)を開催し
ている。総会では、兵庫教育大学大
院や全国同窓会の新しい動向を、全国
大会に参加した役員から情報提供をし
ている。研究会では、その年度修了生
の修士論文及び会員の自由研究を発表
している。平成24年からは、加治佐学
長による教育講演会を一般公開とし、
会員以外にも開催市の校長をはじめ、
教職員や一般市民も参加している。

西中国ブロックとしての具体的な活
動はしていないが、本部役員として、
あるいは、期やコースでのつながりを
元にして交流してきた。今後は、山口
支部の活動に西中国ブロックの会員を
招待するなど、互いの交流の場を深め
て参りたいと考えている。

第35回 兵庫教育大学大学院

同窓会総会・研究大会 in 宮城

標記の大会が、平成27年8月1日(土) 2日(日)の両日、仙台市のホテル白萩をメイン会場として開催されました。全国各地より85名の同窓生が参加し、とても有意義な大会となりました。

本大会開催にあたり、事前の周到な準備から、当日のきめ細やかな運営全般に至るまでご尽力賜りました、宮城県・岩手県・福島県支部のすべての関係者の皆様に対し、衷心より厚くお礼申し上げます。有難うございました。

演「最近の教育改革について」

兵庫教育大学長

加治佐 哲也



1 はじめに
民主党政権から安倍政権に代わり、初等中等教育の改革が急速に進

められているが、個々の改革の中身は脈絡がなく、それぞれにどういう意味があるのか、全体像として示されていないのが現状である。

また、高等教育についても、国立大学改革(人文社会科学系学部や教員免許が取得できない教育学部の見直し)が推し進められようとしている。

2 大学教育の改革について

平成16年から平成21年までの6年間で国立大学法人としての第1期中期目標期間、平成22年から27年までの6年間で第2期、そして、平成28年から第3期が始まる。

3 兵庫教育大学の今後

◇国立大学の分類

今後、次の3種類に分類される予定である。

①地域貢献プラス特定分野について、全国的・世界的貢献ができる力がある大学(本学はここを選択)

②特定分野において、全国的・世界的にオンラインワンの力がある大学(東京芸大、東京海洋大学など)

③グローバル化できる力を持った大学(旧7帝大など)

◇本学の第3期中期目標期間における重点的取組について

①ビジョン

○これからの時代を見据えた次世代型教育を実践できる「教育内容・方法の革新」を実現するため、先導的な研究プロジェクトを推進し、教師教育の実践と研究における全国拠点(ナショナルセンター)並びに地域拠点(リージョナルセンター)となり、「教師教育のトップランナー」としての社会的役割を果たす。

○教員の資質能力の向上と学校教育の改善を求める社会的要請に応え、高い専門性と確かな実践力を備えた教員を養成するため、教職大学院における教員養成の一層の高度化に取り組み、「卓越教職大学院」となる教育・研究活動を展開する。

②そのための戦略

△その1▽

現職教員再教育型大学院(スーパースクールリーダー養成)の拠点形成。

△その2▽

教職大学院を核とした教員養成高度化の推進。
△その3▽

教育委員会との協働による教員研修プログラムの開発・実施をはじめとする地域連携事業の推進。

△その4▽

教育・研究支援体制の改革及び機能強化。

個々の戦略に関しては、それぞれ評価指標を本学と評価する文部科学省とで設定しているが、詳細については紙面の都合上省略。

③個々の戦略についての具体的取組

取組として、戦略①に関しては4つ、戦略②が2つ、戦略③が1つ、戦略④が3つ挙がっているが、ここでは紙面の都合上、戦略①の取組から代表的なもののみ紹介する。

【取組1】

○新たな「スーパースクールリーダー」養成に向けた先端研究
○教育政策リーダーコースの組織整備

○グローバル化推進教育リーダーコースの組織整備

【取組2】

○就学前教育専門職(仮称)養成と幼小連携を含めた総合的カリキュラム開発

【取組3】

○特別支援教育地域リーダー養成プログラムの開発

東日本大震災における

教育領域の取組み

「いわて子どものこころのサポート」

岩手県立総合教育センター 支援指導部

研修指導主事 大谷 哲弘

1. 「いわて子どものこころのサポート」の実施

岩手県教育委員会は、全県が被災しているという認識のもと、日常の学校生活の中で子どもを支える教員及び心身の影響を受けた児童生徒を組織的・継続的にサポートする体制を構築した。そのために、「いわて子どものこころのサポートチーム」(スクールカウンセラー6名+教育センターの特別支援担当、教育相談担当)を構成した。

スーパーバイザーに富永良喜先生(兵庫教育大学大学院教授)が就任し、指導いただいている。

2. 「いわて子どものこころのサポート」の内容

(1) 教員研修

震災1年目は、1年間を見通した災害トラウマの段階に応じた全県同一内容の研修会を実施し、震災2年以降は、多岐にわたる研修ニーズに応えるため、ストレスマネジメントを始めとする10以上のテーマを提示し、学びを支援する体制を整えた。

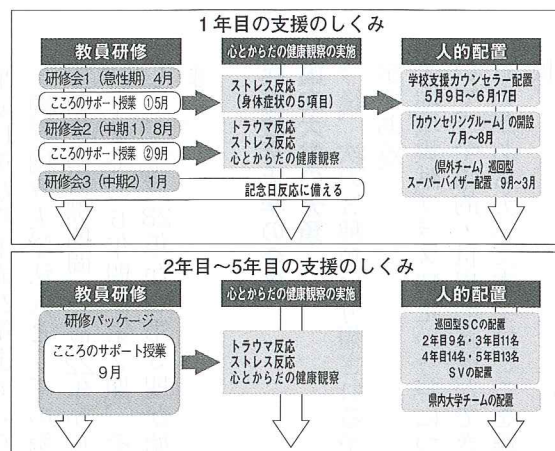
(2) 「心とからだの健康観察」の実施

「心とからだの健康観察」は、学級集団を対象とした心理教育・リラクゼーションを中心とする「こころのサポート授業」とセットで行われた。これは、児童生徒が自分の状態に気づきセルフケアの力を高め、教員による児童生徒への支援に役立つよう実施されたものである。

(3) 人的支援

震災直後に支援していただいた「学校支援カウンセラー」を経て、現在は、県外の臨床心理士が沿岸部に居住し

「巡回型カウンセラー」として支援していただいている。その活動は、教員と協働しながら、個別の支援だけでなく、学級集団を単位とした安全と安心の体験、ストレスマネジメント教育、心理教育、表現活動、防災教育等への支援を行うものである。



3. 「心とからだの健康観察」の集計結果と今後の課題

「要サポート」児童生徒数・割合は全校種合計では減少・横ばいであるが、学校種ごと、地域ごとに見ると、増加している場合もある。

様々な背景をもつ児童生徒については、特に個に応じた配慮が必要である。今後、トラウマ反応が生ずる場合、震災トラウマ以外のトラウマと結び付いている可能性が考えられる。そのために下記の①②③が求められる(山本, 2015)。

①発見の努力と工夫の継続の必要性、②多職種連携(教育、心理、医療、福祉保健)により地域の資源を結びつける支援、③教師の連携におけるコーディネーターとしての役割

謝辞:これまでご支援くださった多くの方々に心から感謝と御礼を申し上げます。

心のケア推進班における 支援者支援事業に携わって

宮城県子ども総合センター 心のケア推進班

主任主査 松村 環



宮城県子ども総合センターは、宮城県保健福祉部の地方機関である。当センターは東日本大震災発生直後から医師や心理士等で構成される心のケアチームを編成し、巡回相談による医療的介入と相談支援を行ってきた。その後、学校保健、母子保健及び児童福祉といった現行制度による支援に移行するため、平成26年4月に心のケア推進班を設置した。当班では、子どものメンタルヘルスに関わる機関の職員の対応力向上と連携強化を目的とした支援者支援事業を行っている。ここでは学校保健領域の事業について述べる。

平成26年度、当班は定期訪問校を含めて延べ17校を訪問し、被災した子どもや学校の現状と課題について調査した。多くの子どもが元気に日常生活を送っている一方で、少数ながら、今も震災の影響を受けていると思われる子どもがいることが分かった。また、不登校や登校しぶりの増加、家庭環境が不安定でその影響を受けていると思われる子ども、発達に課題があると思われる子どもといった「気になる子ども」が増えたように感じる。

という声が多く、多くの学校で聞かれた。これらの問題は、復興の遅れや格差の拡大といった被災地域の課題と無関係ではなく、様々な問題が絡み合っており、「気になる子ども」の増加という形で表面化したものと考えられる。加えて、被災した子どもたちを支援する支援者も被災者であり、管理職からは職員のパフォーマンスを懸念する声も聞かれた。

しかしながら、多くの子どもたちが元気に毎日を過ごしているのは、学校や教員の力によるところが大きいと感じる。学校は、教員が常に子どもに目を配り、子どもにとって安心と安全を感じられる場である。また、当たり前前のことが当たり前で、学習や友人関係を通して適度なストレスや葛藤を体験しながら、集団の中で成長できる場もある。学校という日常性を回復できる環境と教育の力によって、子どもの心が癒されていったことが窺えた。

被災地の子どもが抱える問題は時間の経過とともに震災との関連が不明瞭になるが、間接的・潜在的な影響は今後も続くであろう。子どもの看取りに、震災の影響という視点を持ち続けることが必要である。また、複雑な問題を抱える家庭には、教育と福祉が連携・協働して切れ目のない支援を検討することが一層求められるであろう。

当班は、昨年度と同様にアウトリーチを主とした活動により支援者支援を行っている。併せて、震災から5年間の活動の振り返りを行う予定である。

演 『海をうらまず 大震災を越えて』

講 NPO法人 森は海の恋人
理事長 畠山重篤



私は、現在
気仙沼で牡蠣
の養殖を行っ
ている。震災
による大きな
打撃を受け、

養殖業は壊滅的な被害を受け多くを失った。しかし、震災後復旧に努め、現在は震災前の生産にまで回復した。それは一体なぜなのか、今日皆さんにお話をしたい。

私は、これまで「森は海の恋人運動」を通じて環境保全に向けた取り組みを行ってきた。お陰でその取り組みは、国内諸団体から高い評価をいただき、小中学校の国語の教科書や社会・英語の教科書にも取り上げられた。そしてその評価は、国内に止まらず2012年国連からフォレスト・ヒーローズ賞をいただくまでとなった。しかしその際「森は海の恋人」を英語でどう表現するか困った。最終的には「The Sea is longing for the forest」の訳となったが、この英訳のヒントを与えてくださったのが皇后陛下美智子様です。皇居を訪問した際「long for」という熟語を使ったらどうですか」とご提言頂き

ました。「long for」という熟語は愛している、好きだという意味もありますが、第一義的にはお慕い申し上げるという意味であり、森と海の関係は、森は海を慕い海は森を慕いまさに相思相愛の関係ですから、そういう想いもいだいて木を植えて欲しいと思っています」とのこと、私はこの訳がまさにぴったりの訳だと感心した。

私は地元の水産高校を卒業後、家業の牡蠣養殖を手伝い美味しい牡蠣を生産すべく一生懸命養殖に取り組んだ。しかし、当時海洋汚染が進み赤潮が発生、牡蠣養殖が苦境に立たされた。折角生産出荷しても、本来白いはずの牡蠣が赤潮の影響で赤くなり売り物にならない。東京・築地の仲買人からは「白いカキを作れ、赤いカキ（柿）は農家の人が作ればよい」と揶揄されたこともあった。そこで一念発起、何とか白い美味しい牡蠣を作れないかと研究した。わざわざ牡蠣の養殖が盛んな広島に出かけて行き研究した。結論は広島には太田川が流れており、その河口が汽水域となつていい牡蠣が生産されることに気づいた。山の栄養分を太田川が広島湾に運び素晴らしい牡蠣が作られている。そこで気仙沼湾に注ぎ出る大川を調査研究しようという関係各所に相談したが「縦割り行政」が厚い壁となつた。海は水産庁、河川は建設省、水田と山は農林省、また宮城県と岩手県境に位置することで県行政の違いも障害

となり、調査研究が進まなかった。しかし、海と山は一体という信念のもと、海のために植林活動を続けた。

その時良いキャッチフレーズはないかと考えた。「カキもワカメも森の恵み」ではどうも納得できない。そこで気仙沼の歌人熊谷龍子さんに相談した。気仙沼は歌人落合直文を生んだ土地柄で、現在でも落合直文短歌大会を開催するほど短歌にゆかりのある土地だ。その気仙沼が生んだ歌人熊谷武雄氏の孫にあたるのが熊谷龍子さんだ。熊谷さんはその相談から、自分が詠んだ歌「森は海を海は森を恋いながら悠久よりの愛紡ぎゆく」の句から「森は海の恋人」と名付けてくれた。そして、地元室根山の森に木を植える活動が始まった。まさに「森は海の恋人」という宝石のような言葉は、落合直文から連なる百年の系譜のなかから生まれ、以後植林活動のキャッチフレーズとなったのである。

そして、12年前に、京都大学で「森里海連環学」という世界初の学問ができ生物学、河川・生態学、水産学の三人の博士が訪ねてきた。良いカキを育てるには海流の環境、特に上流の森林が重要との信念のもとに、平成元年から気仙沼湾に注ぐ大川の上流で「森は海の恋人」植樹活動をしていた私は、森から海までを一つに考える学問が起ったことに涙があふれる思いだった。ヒラメは沖合で産卵し、幼魚は浜

辺の砂浜付近で育つ。しかし現代の沿岸はコンクリートで固められ砂浜自体も消えつつある。このことから魚類学だけでは問題は解決しない。海は森を慕っていることを、我々はしっかりと自覚しなければならぬ。また、植物プランクトンにより牡蠣は良く育つが、植物は光合成の際、鉄が必要であり、海藻も同様だ。そのように海には鉄が必要だが、海水中の鉄含有量は少なくほとんどは海底に沈殿している。そのため、川から流れてくる鉄が重要となる。まさに海に鉄を供給してくれるのは森林であり、それを運んでくれるのが川なのだ。樺（ブナ）とは木偏に無と書く。昔のブナは役に立たない木だった。しかし、今はどうだろう。ブナで有名な白神山地は様々な場で脚光を浴びている。森林は決して役に立たないものではなく大事なもののだ。

今回の震災により大きな被害を受けた多くのものを失った。しかし、津波により海が攪拌され、海底に沈んでいる窒素やリン等が海中に浮遊し植物プランクトンが大量に発生し、カキの成長も良くなり生産量もあがった。決してマイナス面だけではない。今後も環境を守り、自然を大切にしながら養殖業を行っていく。人の意識が変われば自然は大丈夫だ。だから今後も「森は海の恋人運動」を継続していきたい。

（以上 文責 千田健一）

平成27年度 教育実践研究活動等に係る受賞者

(五十音順・敬称略)

	氏 名	教育実践研究活動等の内容	専攻・コース・期
嬉 野 賞	さかぐち ゆたか 坂口 豊 (大阪府)	国語教育の指導者として豊富な実績があり、特に作文指導に関する共著や研究論文等を多数執筆する。社会活動も広く展開し、後進の育成にも貢献している。同窓会活動に尽力し組織の基盤づくりに果たした功績は大きい。	教科・領域教育専攻 言語系コース 1期
	はな い まさ き 花井 正樹 (愛知県)	教育研究者として不登校問題や教育相談を始め、教師への教育的支援についても研究を深め、論文や単著・共著等を多数執筆する。教育現場での豊富な経験を生かし、愛知県でのスクールカウンセラー制度の普及・浸透に努めた。	学校教育専攻 生徒指導コース 4期
	ひらまつ きよし 平松 清志 (岡山県)	教育現場での実践経験を踏まえた、教育相談・臨床心理学の研究者として、論文や単著・共著等を多数執筆する。実践研究活動における後進の指導や育成にも努めている。平成11年連合大学院後期博士課程修了(学校教育学博士)。	学校教育専攻 生徒指導コース 5期
奨 励 賞	さかい たつ や 酒井 達哉 (兵庫県)	総合的な学習の時間を中心に、他教科との関連を図りながら地域教材を生かした授業の研究や教材開発に努めている。読売教育賞最優秀賞を始めとし教育実践を踏まえた表彰を多く得ている。後進の育成にも尽力している。	教科・領域教育専攻 言語系コース 30期
	まなべ ひろし 真鍋 博 (愛媛県)	大学院在学当時から、東井義雄先生の教育理論と実践について研究を深め、学校現場ではその実践に情熱を傾けた。退職後は、故郷の愛媛県で社会貢献活動を広く展開し、地域づくりとその活性化に貢献している。	学校教育専攻 教育基礎コース 2期



兵庫教育大学と「播磨国風土記」の歌

1. はじめに

先般開催の同窓会総会・研究大会 in 宮城における畠山重篤氏の記念講演では、「歌の重要性」を落合直文、熊谷武雄、熊谷龍子、美智子妃殿下の具体的な例を引きながら強調しておられた。

また、第16回同窓会岩手大会(平成8年)の記念講演においては、宮沢賢治研究家の吉見正信氏が「賢治は、人間だけでなく野の草花にも福祉を受ける権利があるといっていることが素晴らしい。草花も人間と同等と考えていた。現代においても先見的な思想である。」と述べておられることも通底する。

これらのことに学びながら、標記の件に関して情報提供をさせていただきたい。

2. 「愛しき 小目の小竹葉に 霰ふり霜ふるとも な枯れそね 小目の小竹葉」

応神天皇(「播磨国風土記」より)

(大意：若く青々とした小目のささの葉に霰が降り霜が降りてもどうか枯れずにいてくれ小目のささの葉よ)

- 「播磨国風土記」(713～715年頃成立)にある「小目の小竹葉」の歌は、教育の根本精神(現代で言えば教育基本法にある「生命や自然を大切に^をする態度」)に関わる日本最古の歌と言えよう。現在もこの歌を口ずさむ地元の古老がいる。歌にある「小目の」(小目野)(現加東市社町野村字小部野を含む地)は、同風土記に記されている賀茂の郡の穂積の里に在った地名である。
- その意味からすれば、教育の原点とも言える地に立つ兵庫教育大学大学院同窓生として、改めて「播磨国風土記」及び本歌の意義に思いを馳せながら日々精進に努めたい。

平成27・28年度兵庫教育大学大学院同窓会役員名簿

(自 平成27年6月1日～至 平成29年5月31日)

会 長	川村 庸子 (岩手)
-----	------------

相 談 役	武 泰稔 (岡山)	酒 巻 成欣 (大阪)	吉 田 廣 (兵庫)	山 下 裕 (広島)	大 橋 博 (兵庫)
-------	-----------	-------------	------------	------------	------------

副 会 長	専門部長代表	ブロック長代表	院生協代表	事務局長	監 事 長	望 月 茂 (静岡)		
	北山 鎮道 (岡山)	玉木 隆 (岐阜)	林 達哉 (兵庫)	臼井 洋 (兵庫)	監 事	中根 弘之 (岐阜)	田中 嘉明 (兵庫)	中園大三郎 (大阪)

ブロック (専門部)	北海道・東北	関 東	中部・東海 (組織部)	近 畿 (総務部)	近 畿 ① (総務部)	近 畿 ② (研究部)	近 畿 ③	東中国・四国 (会計部)	西 中 国 (広報部)	九州・沖縄
専門部長	——	——	勝俣 得男 (静岡)	船本 秀忠 (兵庫)	中尾 豊喜 (大阪)	——	——	北山 鎮道 (岡山)	毛利 直巳 (鳥根)	——
ブロック長	遠藤 茂 (宮城)	石井 清文 (東京)	玉木 隆 (岐阜)	新居 寛 (兵庫)	吉原 照昌 (大阪)	山本 紀代 (和歌山)	清田 公典 (愛媛)	清田 公典 (愛媛)	渡邊 哲郎 (山口)	大坪 文二 (宮崎)
副ブロック長	菅原 廣次 (宮城)	松尾 鉄城 (埼玉)	幸協 直久 (岐阜)	横内 惠 (兵庫)	長井 勘治 (大阪)	岸本 秀章 (奈良)	佐々木 勇 (岡山)	佐々木 勇 (岡山)	津田 和也 (広島)	草場 聡宏 (佐賀)
理 事 (54名)	棚澤 実 (北海道)	荒井 豊 (埼玉)	杉田 和一 (福井)	田端 孝司 (京都)	吉田恵美子 (大阪)	山中 賢司 (奈良)	金兒 利明 (鳥取)	金兒 利明 (鳥取)	藤原 尚幸 (鳥根)	川尻 徳 (福岡)
	小山 文明 (岩手)	生駒 義郎 (埼玉)	梶原 正史 (山梨)	上西 一郎 (兵庫)	恩知 忠司 (大阪)	唐錦 秀和 (奈良)	千葉 照久 (岡山)	千葉 照久 (岡山)	勝田 章 (鳥根)	船津 勇一 (大分)
	永嶋 啓一 (福島)		大畑 健実 (静岡)	白井 洋 (兵庫)	雲井 稔 (大阪)	西端 幸信 (和歌山)	後藤 陽三 (愛媛)	後藤 陽三 (愛媛)	市川 博登 (広島)	
			山田 達夫 (静岡)	森 一郎 (兵庫)	松村紀代子 (大阪)				石川 芳己 (山口)	
			小林由美子 (愛知)	五百住 満 (兵庫)						

支部代表 専 務 (30名) 理事兼務 (20名)	(北海道)									
	西澤 亨一 (青森)	駒田 郁夫 (栃木)	森山 義人 (富山)	田端 孝司 (京都)	恩知 忠司 (大阪)	○雲井 稔 (大阪)	○岸本 秀章 (奈良)	鷲見 寛幸 (鳥取)	岩田 進 (鳥根)	○川尻 徳 (福岡)
	○川村 庸子 (岩手)	青木 雅夫 (群馬)	沼田 良一 (石川)	○横内 惠 (兵庫)	○長井 勘治 (大阪)	○恩知 忠司 (大阪)	○西端 幸信 (和歌山)	○佐々木 勇 (岡山)	○津田 和也 (広島)	○草場 聡宏 (佐賀)
	○遠藤 茂 (宮城)	○松尾 鉄城 (埼玉)	○杉田 和一 (福井)	○船本 秀忠 (兵庫)		○長井 勘治 (大阪)		野島 悟 (香川)	○石川 芳己 (山口)	橋本 郁朗 (長崎)
	高橋 正規 (秋田)	手塚 裕 (千葉)	○梶原 正史 (山梨)	菅野 恭介 (兵庫)				○清田 公典 (愛媛)		八間川隆彦 (熊本)
	和田 妙子 (山形)	野田不二夫 (東京)	笠原 忠照 (長野)					川崎二三雄 (高知)		藤原 崇能 (大分)
	○永嶋 啓一 (福島)	児玉 祥一 (神奈川)	森 社 (岐阜)							久島 孝昭 (宮崎)
			神尾 義敬 (静岡)							室屋 賢三 (鹿児島)
			鈴木 均 (愛知)							松川 隆夫 (沖縄)
			大森 雅彦 (三重)							

計 84	8	10	16	10	7	5	10	8	10
------	---	----	----	----	---	---	----	---	----

註) 明朝体○印で示す者は理事等と兼務しており、再掲であることを示す。会長・副会長・監事・相談役を合わせて総役員数96 (役員会) ,ゴシックあみかけで記す者22名 (本部役員会)

第35回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会 in 宮城



第35回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会 in 宮城 平成27年8月1日 於ホテル白萩



▲情報交換会



▲巡検 (松島)



▲巡検 (松島)



▲巡検 (被災地)



▲巡検 (荒浜小学校)



▲巡検 (松島)

次回は大阪大会で集おう

大会テーマ：教師教育の「トップランナー」としての志をもって

大会宣言：一、私たち兵庫教育大学大学院同窓会は、我が国の学校教育を担う教師の資質向上を目指す「トップランナー」とであるという、自覚と誇りを旨に、更なる研究と研修に邁進することを確認する。
 一、全国に活躍する同窓生が1万名にならんとする現在、さらに人的ネットワークの強力な連結を図り、理論と実践が融合する新たな教育文化の創造発展を期し、高度な教員養成・研修の推進に寄与する。

期日：平成28年8月6日(土)～7日(日)

会場：ホテル アウィーナ大阪 (TEL：06-6772-1441(代) 〒543-0031 大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12
 JR大阪環状線「鶴橋」駅 980m

大阪大会テーマ：自らの教育道を「水都大阪」で、より広く、高く創造しよう！

テーマ設定の趣旨：水都と呼ばれた大阪は、古来より水運による物流が盛んであり、江戸期には天下の台所とも称された商都です。この地は、町人文化が盛んで文楽や落語など継承され今日に至っています。町人は学問にも取組み、私塾の学校「懐徳堂」「適塾」は有名で水準も高いと言われてきました。現在、大阪の学校教育の現場では若手教員や管理職不足等の課題がみられますが、教育現場の努力と工夫により徐々に課題を解決しながら発展を続けていることも確かな事実です。

大阪大会が、教職の先達として「実践と理論の融合」を語り継ぐ兵庫教育大学大学院修生の日常を省みる機会となり、教育パラダイムの転換を図り、「教育道に生きる」指針を追求し、新たな発見や創造の場となることを期待します。

これにより、学校教育学の学術振興と大阪府、大阪市、堺市地域をはじめ日本教育界のさらなる隆盛を祈念して大会テーマを設けました。